

カリキュラム Curriculum	文学研究科DC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
924	インド文化学特別研究 <Advanced Special Studies of Indian Thought>			演習
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)	開講期 Semester	開講時間帯 Day and time	
インド文化学	岩崎 陽一(IWASAKI Yoichi)	秋学期 (Fall semester)	月曜 : 5限	
講義題目 Title	文法学派の哲学			
単位 Credit	2			
備考 Others				
履修条件 注意事項 Requirements for registration	サンスクリット中級の知識が必要である。			
授業の目的 Purpose	<p>パーニニのサンスクリット文典に対する現存最古の註釈であるパタンジャリの『マハー・パーシュヤ』は、言葉とは何か、意味とは何かといった言語哲学の基本的な問題を論じる序章「パスパチャー日課」で始まる。執筆時期は紀元前2世紀。インドの言語哲学の最古層に位置する同章を読み解き、そのルーツを探る。言語哲学に親しんでいる履修者にとっては、言語哲学で扱われる諸問題の起源と思想史背景を考える授業になるだろう。言語哲学初心者にとっては、これが言語哲学への導入となる。</p> <p>Patañjali's Mahābhāṣya is the oldest extant commentary on Pāṇini's Sanskrit grammar. It begins with the prolegomena called "Pāṣpācārīnīka" that deals with the fundamental questions of philosophy of language, such as "What is the word?" and "What is the meaning of a word?" In this course, we will read this chapter so that we can find the root of Indian philosophy of language.</p>			
授業の内容 授業の方法 Content	『マハーパーシュヤ』 「パスパチャー日課」を輪読する。和訳の準備は本文だけで構わないが、代表的な註釈である Pradhāna と Uddyota も読んでくれることが望ましい。			
教科書 テキスト Textbooks	S. D. Joshi and J. A. F. Roodbergen. Patañjali's Vyākaraṇa-Mahābhāṣya Pāṣpācārīnīka. Pune: University of Poona, 1986.			
参考書 References	テキストに付属の英訳と解説をよく読むこと。たいへん参考になるはずである。			
受講生の 自宅学習 Preparation and review	輪読形式の授業なので、必ず予習をしてこよう。			
成績評価の 方法と基準 Evaluation	筆記試験50%、平常点（予習の状況と授業中の質疑を評価対象とする）50%。			
連絡方法 Contact information	便覧記載の連絡先に連絡のこと。			